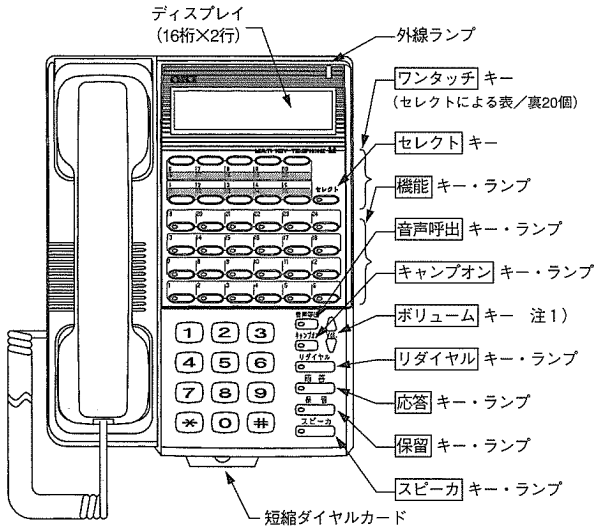


# マルチ・キーテレホン M 操作早見表



注1) ボリュームキーは、電話機の状態により、以下の通り音量の調節ができます。

通話中：受話音量の調節ができます。


スピーカ受話中：  
スピーカ音量の調節ができます。


着信音鳴動中：  
着信音量の調節ができます。


図は、MKT/M-24D電話機を示します。(MKT/M-24DPF及びMKT/M-24DXも同様です)  
MKT/M-12S電話機及びMKT/M-12D電話機の機能キーは、12個となります。  
MKT/M-12S電話機には、ディスプレイはありません。



## 電話機の操作のしかた









### ● 各記号の意味

 固定キーを押す。  
(音声呼出、キャンプオン、リダイヤル、応答、保留、スピーカ、ボリューム、ワンタッチキー)

 受話器をあげる。

 受話器をおろす。

区分	サービス機能	説明	操作方法	備考
発信	通常の発信	内線 PBX内線に発信できます。	 → 内線番号	内線呼出し中、相手がマルチキーテレホンの場合、 <b>音声呼出</b> を押すと音声で呼出します。 再度押すとトーン呼出しに戻ります。
		外線 外線に発信できます。	 → 0 (発信特番) → 相手番号	

区分	サービス機能	説明	操作方法	備考
発信	ワンタッチダイヤル	ワンタッチで発信できます。	 → ワンタッチ キー (1~20) 11~20は セレクト キーを押す	
	オンフックダイヤル	受話器を持たずに発信できます。	スピーカ キー → 相手番号	
	リダイヤル	最後にかけた相手に再び発信できます。	 → リダイヤル キー	外線、専用線に再発信できます。
	キャンプオン	内線相互で、相手内線が話中の時キャンプオン登録しておけば、その内線が空き次第、自動的に呼出します。	 → 内線番号 → (相手話中) → キャンプオン キー →  → (相手  ) → 呼出音鳴動 → 	
着信	通常の着信	着信応答できます。	着信音鳴動 → 	
	応答	同一ピックアップグループ内の他の内線電話機への着信を、自分の内線電話機で応答できます。	他の内線電話機が着信中 → 応答 キー	
保留	自己保留	通話中の呼を保留することができます。	通話中 → 保留 キー	保留ランプ点灯中は、受話器を置くことができますが、発信、着信はできません。
転送	ダイヤル転送	通話中の相手を一時保留して、他の内線へ呼出し、通話後、受話器を置くことによって、保留されている相手を他の内線に転送することができます。	通話中 → (※フッキング操作) → 転送内線番号 → 転送先応答 (打ち合わせ通話) →  転送先を誤ってダイヤルした場合、転送を解除する時は、一度受話器をおろし、呼び返しがあった後、再度受話器をあげるにより行えます。	外線、専用線、内線のいずれの通話でも内線転送できます。 ※フッキング操作が不要なPBXもあります。
その他	受話音量切り替え	受話音量調整ができます。	通話中に ボリューム キー△、▽で調整します。	
	着信音量切り替え	着信音量の調整ができます。	着信音鳴動中に ボリューム キー△、▽で調整します。	
	スピーカ受話音量切り替え	スピーカ受話音量の調整ができます。	スピーカ受話中に ボリューム キー△、▽で調整します。	

(注意) PBXの設定で、**音声呼出**、**キャンプオン**、**リダイヤル**、**応答**、**保留** キーに、おのおの該当するサービスが割付けてあることが必要です。

# 電話機の設定のしかた

## ● 電話機の設定

オンフック状態で、**ボリューム**キー（△キーまたは、▽キー）を押しながらテンキーを押すことで、下記の設定ができます。

No.	設定	操作方法	記事
1	着信音量切替え	<b>ボリューム</b> キーを押しながら <b>1</b> を押して、△キーまたは▽キーで調整する。	3段階切替え
2	受話音量	<b>ボリューム</b> キーを押しながら <b>2</b> を押して、△キーまたは▽キーで調整する。	3段階切替え
3	LCD偏向角切替え	<b>ボリューム</b> キーを押しながら <b>3</b> を押して、△キーまたは▽キーで調整する。	8段階切替え
4	マルチライン着信音色切替え	<b>ボリューム</b> キーを押しながら <b>4</b> を押して、△キーまたは▽キーで切り替える。	A/B/C/Dの4段切替え
5	着信音色切替え	<b>ボリューム</b> キーを押しながら <b>5</b> を押して、△キーまたは▽キーで切り替える。	A/B/C/NETの4段切替え

## ● 停電電話機の設定（MKT/M-24DPFのみ）

電話機底面のディップスイッチの切替えにより、PBX停電時のダイヤル設定と、録音レベルの設定ができます。この設定を間違えると誤接続の原因となります。

機能	設定	説明
ダイヤル種別	PB	PBダイヤルの場合。
	DP	DPダイヤルの場合。
ダイヤルスピード	10	DPダイヤル時、10PPSとなります。
	20	DPダイヤル時、20PPSとなります。
録音レベル	L	テープレコーダのMIC入力に接続する場合。
	H	テープレコーダのLINE入力に接続する場合。

## ● 通話録音（MKT/M-24DPFのみ）

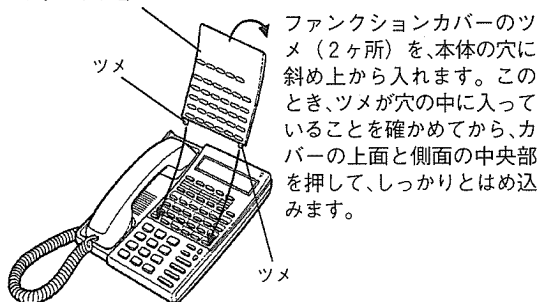
録音装置（テープレコーダ）を録音コード（ミニプラグ）で接続して、通話中の音声を録音することができます。

録音装置は、MICボリュームまたはAGC付きのものをご使用ください。

# ファンクションカバーの取付けかた・取外しかた

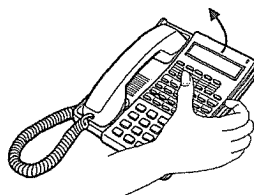
## 取付けかた

ファンクションカバー



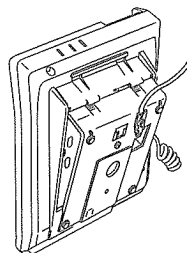
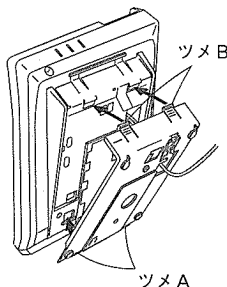
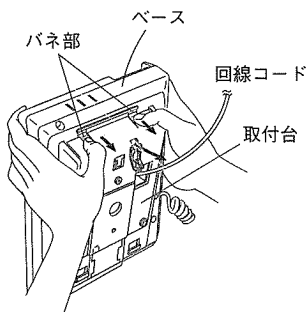
ファンクションカバーのツメ（2ヶ所）を、本体の穴に斜め上から入れます。このとき、ツメが穴の中に入っていることを確かめてから、カバーの上面と側面の中央部を押して、しっかりとめ込みます。

## 取外しかた



ファンクションカバーの右側面の中央付近に指を引っ掛け、カバーを持ち上げて取外します。

# 電話機の角度変更のしかた



- ① 電話機を裏返し、まず回線コードを取付台の溝からはずします。次に図の様にバネ部を押し、矢印の方向に引くと、取付台がはずれます。
- ② まず取付台のツメAを、矢印の穴に入れ、次にツメBをバネ部を押しながら、矢印の穴に入れ込みます。
- ③ 最後に、回線コードをもとの取付台の溝に入れます。

# 製品を安全に正しくお使いいただくために

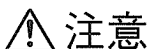
——— ご使用の前に必ずお読みください ———

本製品を安全に正しくお使いいただき、あなた様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の事項を必ずお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例



この記号は禁止の行為であることを告げるものです。  
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



**警告**

- 電話機コードを商用電源には接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢等、水類の入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 内部の点検・修理はお買上げ店に依頼してください。



## 注意

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気があたるような場所、及び、ちりほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ・ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたり、けがの原因となることがあります。
- ・直射日光のあたる場所や湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。
- ・水滴がいたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると火災・故障の原因となることがあります。
- ・壁掛け用に取り付ける場合は重みにより本機が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因になることがあります。



## 取扱いのご注意

- 受話器用カールコードや、モジュラープラグで差し込まれているラインコードを強く引っ張らないでください。故障の原因になることがあります。
- 磁気を発生するものの近くに設置しないでください。誤動作の原因になることがあります。
- 電話機を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコールおよび、シリコン系のクリーナーなどの使用は絶対にさけてください。水を含んだ布をかたくしぼって拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。変色・変形の原因になることがあります。
- 放送局のアンテナ近く（2 km以内）や、CB無線、漁業無線の交信が多い場所（国道沿い、港の近く）で雑音が発生する場合は、販売店にご相談ください。
- 雷の多い地域において、雷対策を実施する場合には販売店にご相談ください。